

授業科目	観光倫理思想特別演習 The Ideas of Tourism Ethics			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年／前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
この講義では、修士課程における観光倫理の研究をさらに深め、応用倫理学や観光の宗教学的・社会的・文化人類学的な考察などに関する国内および海外の最新の研究業績を広く検討することを通して、観光の具体的事例における倫理的問題性に対する理解を、地域マネジメントの問題に結びつけていく能力を修得することを目標とする。							
観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	地域マネジメントにおける観光倫理の応用について討議することができる。				・授業態度・参加		20%
					・課題レポート		10%
思考・判断	観光倫理の思想的根拠と規範について考え、地域マネジメントに関わる論点を的確に指摘することができる。				・授業態度・参加		10%
					・定期試験		10%
技能・表現	観光倫理の諸概念と視点を、地域マネジメントに関する自らの研究テーマに応用することができる。				・授業態度・参加		10%
					・課題レポート		10%
知識・理解	地域マネジメントと観光倫理に関する主要な研究業績や潮流について説明することができる。				・定期試験		20%
					・課題レポート		10%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
評価は定期試験 30%、課題レポート 30%、授業態度・参加 40%の配分で行う。定期試験は授業テーマと自らの研究テーマに関連づけたレポートの提出により行うものとして、主要な先行研究の問題提起を的確に理解し、地域マネジメントと観光倫理のさまざまな概念と視点を十分に用いることができているかを評価基準とする。課題レポートでは自らが解題を担当するテキストの内容を十分に理解し、幅広い文献・資料にも意欲的に当たって、内容豊富で問題提起的なレジュメを作成することができているかによって評価する。授業態度・参加については、発表をめぐる受講生同士の討論や教師からの発問に対する応答の内容を評価基準とする。							
授 業 の 概 要							
この講義では、観光に関して倫理学、宗教学、社会学あるいは文化人類学の立場から論じたテキストを講読するとともに、受講生の研究発表と討論によって地域マネジメントにおける観光の意味について考察していく。さらにそこから、新しい研究分野である地域マネジメントの現状分析と問題析出を行うことによって、そのあるべき方向性を検討する。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：David F. Fennell, <i>Tourism Ethics</i>, 2006. 参考書：Mick Smith, <i>The Ethics of Tourism Development</i>, 2003. Myra Shackley, <i>Managing Sacred Sites: Service Provision and Visitor Experience</i>, 2001.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
観光倫理に関する考察は、観光による地域振興あるいは「まちづくり」として不可避の課題であり、観光を通して現代的な地域マネジメントのあり方を問う上ではきわめて大きな意義を有している。学問的にいまだ新しく、確立されていない領域であるが、それだけにまた生産的な議論が可能でもある。受講する院生諸君の主体的かつ積極的な参加を期待するとともに、高度な学術研究能力の修得を要求する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	地域マネジメントの倫理的問題性(1)	地域マネジメントを行っていく上でどのような倫理的問題が生じ得るかを概説し、導入とする。	地域マネジメントの倫理的問題性に関する復習と、住民参加・住民意思に関する予習
2	地域マネジメントの倫理的問題性(2)	地域マネジメントを住民参加と住民意思の尊重という視点から倫理的に考察する。	住民参加・住民意思の尊重の復習と、まちづくりに関する予習
3	地域マネジメントの倫理的問題性(3)	地域マネジメントが「まちづくり」として志向される場合にどのような倫理的問題が生じ得るかを考察する。	まちづくりの復習と、ユニバーサルデザインに関する予習
4	地域マネジメントの倫理的問題性(4)	地域マネジメントをバリアフリーとユニバーサルデザインという視点から倫理的に考察する。	ユニバーサルデザインの復習と、祭りに関する予習
5	地域マネジメントの倫理的問題性(5)	地域マネジメントを祭りと地域共同体の再生という視点から倫理的に考察する。	祭りと共同体の復習と、Fennellのテキスト予習
6	観光倫理の思想的根拠(1)	観光倫理の思想的根拠について、Fennellのテキストを精読しつつ考察する。まず Teleology 中の Utilitarianism の議論を取り上げる。	Utilitarianism の復習と、Hedonism の予習
7	観光倫理の思想的根拠(2)	Fennellのテキストを精読しつつ、Teleology 中の Hedonism の議論を取り上げて考察する。	Hedonism の復習と、Egoism および Virtue Ethics の予習
8	観光倫理の思想的根拠(3)	Fennellのテキストを精読しつつ、Teleology 中の Egoism および Virtue Ethics の議論を取り上げて考察する。	Egoism および Virtue Ethics の復習と、Kantian Ethics の予習
9	観光倫理の思想的根拠(4)	Fennellのテキストを精読しつつ、Deontology 中から特に Kantian Ethics の議論を取り上げて考察する。	Kantian Ethics の復習と、Social Contract Theory の予習
10	観光倫理の思想的根拠(5)	Fennellのテキストを精読しつつ、Deontology 中の Social Contract Theory の議論を取り上げて考察する。	Social Contract Theory の復習と、Existentialism の予習
11	観光倫理の思想的根拠(6)	Fennellのテキストを精読しつつ、Existentialism の議論を取り上げて考察する。	Existentialism の復習と、地域マネジメントへの観光倫理の適用の予習
12	地域マネジメントと観光倫理(1)	地域マネジメントを考える上で観光倫理をどのように適用するかについて概括的に考察する。	観光倫理の適用の復習と、具体的事例に関する予習
13	地域マネジメントと観光倫理(2)	地域マネジメントへの観光倫理の適用の問題を、長崎のカトリック教会について考察する。	長崎のカトリック教会の復習と、長崎の原爆遺構の予習
14	地域マネジメントと観光倫理(3)	地域マネジメントへの観光倫理の適用の問題を、長崎の原爆遺構について考察する。	長崎の原爆遺構の復習と、地域マネジメントの展望の予習
15	地域マネジメントと観光倫理(4)	観光倫理の立場から、地域マネジメントのあるべき方向性を、講義のまとめとして展望する。	講義全体についての整理・復習